

藻岩山



題字：盛 和夫



やまはなサンパークから見る藻岩山

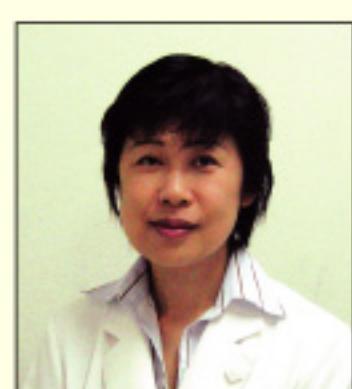
藻岩の風を受けながら

昭和二十五年からこの地で精神科医療に携わってきた平松記念病院。この半世紀以上もの間に、精神科医療はずいぶん変化してきました。とりわけ、昭和六十二年の精神保健法公布とともに、この十数年は、目に見える変化が次々重ねられています。当院も、新しい精神科医療の流れを積極的に取り入れて、「進化」を目指しています。

特にこの十数年で大きく進化したのは、チーム医療の充実です。現在当院では、患者様の多様なニーズに対応し、一人一人の治療目標を達成するために、精神保健福祉士（PSW）、作業療法士（OTR）、臨床心理士（CP）といった専門職のスタッフ数十名が、大活躍しています。これにより医師・看護師も、各々の専門性を活かした医療に打ち込むことが出来るようになりました。

若い風、最新の知識に触ることで、ベテラン職員も大いに刺激を受け、互いに意欲的に学び合うことが出来ます。そのための院内研修の機会も増えました。この活気をご利用者様、地域の皆様と分かち合っていけることを願っています。いろいろな新しい風を受けながらも、地域の中でゆっくり築いてきた当院の持ち味もまた大切にしたいものです。そのシンボルが藻岩山です。

これからも、藻岩の風に守られながら、「良い病院」とは何か、職員皆で考えていくたいと思います。



平松記念病院
副院長
寺江 公仁子

最新鋭機器と 古くからの伝統が 融合した環境



平松記念病院
精神医学研究センター長
山 下 格

精神科の病院 ～今と昔～

平松記念病院の開業は、昭和二十五年（一九五〇年）の秋です。畑の中の道に沿って、普通の住宅よりも大きな建物の工事が進んでいました。当時医学生だった私は、夏休みの夕方、その様子を電車の窓から眺めた記憶があります。それから半世紀あまり経つて、町の様子も人々の暮らしもすっかり変わりました。

科学技術が恐ろしいほど発達して、医学も医療も目覚しく進歩しました。精神医学や精神科医療も例外ではありません。それは平松記念病院も同様です。戦前の日本では明治二十二年（一九〇〇年）につくられた精神病者監護法によつて、家族が精神病者を「監護」する義務を負つていました。そのため終戦のとき、アメリカには精神科の入院ベッドが五十五万床もあるのに、日本には三万足らずしかありません。あわてた政府は、平松記念病院の開業と同じ一九五〇年に精神衛生

法を制定して、精神科病院をつくることを奨励します。しかし精神科医が少ないまま、医療費を特別に低く抑えたので、精神科病院は、患者さんとともに、苦難の道を歩むことになりました。私が某公立病院で精神科の研修を始めた時、内科や外科のある本院は冷暖房付きコンクリート建てなのに、精神科病棟は粗末な木造建築で、おおいに義憤を感じたものです。しかしその後、情況は曲折を経ながらゆっくりと、大きく移り変わりました。世の中の変化と医療の進歩が、互いに影響し合って良い循環をつくったといえます。まず家庭で監護されていた統合失調症（旧称：精神分裂病）の患者さんが、早めに病院を受診するようになりました。新しい薬が次々開発されて、治療の仕方も変わりました。老齢化社会になつて認知症（老年痴呆）の人やそれを心配する人が増えて、脳や脳血管を写しだす器械（MRI）が大活躍しています。新聞やたくさんの本、最近ではインターネットで、うつ病、過食症、パニック障害、自閉症、引きこもりなどの言葉が、日常用語のようになっています。それぞれに治療法も工夫されて、精神科病院の仕事が忙しく複雑になりました。職場や学校のトラブル、家庭内の苦労、将来の不安や性格の悩みなど、必ずしも病気といえない問題も絶える事はありません。内科や外科の病気でも、痛みや不安のために精神面も不安定になつて、からだの不調が強まります。精神科と他の診療科のつな

がりは、以前よりずっと深くなりました。この変化を追いかけて、法律も変わりました。精神衛生法が精神保健法に、さらに精神保健福祉法になつて、身体障害者、知的障害者とが交付されるようになりました。医師と看護師しかいなかつた臨床現場に、精神保健福祉士、作業療法士、心理療法士が加わるための法律的・経済的裏付けが設けられました。

平松記念病院の歴史は、この半世紀あまりの精神医学と精神科医療・福祉の移り変わりを見事に映し出しています。木造二階建ての病棟はコンクリート三階建てになつて、平成十三年には全面的な新增改築がおこなわれました。病室も広くなり、やまはなサンパークに面した明るいデイルームができました。MRIも最新鋭の器械が使われています。変わったのは建物だけではありません。充実した診療、デイケアやナイトケア、OT（作業療法）などに加えて、訪問看護も増えました。外来には、ありとあらゆる悩みごとを持つた方が見えられます。

平松記念病院を開設された故平松勤先生は、誠実で学問好きで進取の気性に富んだ方でした。先生が築いた病院の伝統が、町田理事長、宗院長を中心として、各職種の職員の中にも息づいています。

ポチのおじゃまします!

第一回 デイケア編



ポチです

今回はデイケアにおじゃまします。案内してくれるのは友達のデイケア君です。それじゃあデイケア君、よろしく。



ようこそ、デイケアへ。何もすることなく、気づいたら一日が過ぎていったようなことつてありませんか。家に籠りがち、なんだか孤立しがちで寂しいといったお悩みをお持ちの方はいませんか。そんな人たちが一日一日をより有意義に過ごしてもらうためにデイ

ケアはあります。メンバーは9時30分の朝の会から帰りの会が行われる15時までの間、デイケアで自由に時間を過ごします。そこにいるのは悩みを共有できる仲間。通い始めて友達ができる人も多いようです。

ケアはあります。メンバーは9時30分の朝の会から帰りの会が行われる15時までの間、デイケアで自由に時間を過ごします。そこにいるのは悩みを共有できる仲間。通い始めて友達ができる人も多いようです。

どんなことするの？



プログラムや行事をたくさん用意しております。陶芸や木工、ダイエットクラブ

という本格的な運動プログラムも多種あります。中には外出のプログラムも多種あり、普段一人で出かけられない人も

プログラムを使うことで楽しく外出することもできますよ。また、平松記念病院デイケアのメンバーたちは自分たちで何かを創っています。こういう意識が強く、去年の夏には皆で計画して一泊二日でキャンプに行きました。あまりの楽しさに夜更か

今後もプログラムをさらに充実させ、メンバーと共により良いものにしていこうとスタッフの皆は意気込んでいます。興味のある方は気軽にデイケアスタッフまでご連絡ください。

なるほどなるほど!!最後に読者のみんなに一言どうぞ



今月はデイケアからお送りしました。お相手はポチとデイケア君でした。バーバーイ!



デイケアの達人

藤川 誠治さん

平松記念病院デイケア創始者のひとりで今年で勤続44年の大ベテラン。いつもメンバーの声に耳を傾け、時には優しく受け止め、時には厳しく人生を語る、言わずと知れたデイケアの父。

担当プログラム：生け花・陶芸・パークゴルフなど何でも。
一言：「昔は教科書なんてなかった。メンバーさん達が全て教えてくれた。」「若い人にはまだまだ負けねえぞ。」

利用者の声

- ・デイケア全体が家族のような雰囲気でほっと出来る場所だと思う。 Nさん
- ・毎日通ってることで生活のリズムが出来てきた。 Hさん
- ・目標を持って生活することが出来るようになった。 Mさん
- ・プログラムへは強制参加ではないので自分のペースで利用できる。 Tさん
- ・スタッフだけでなく、メンバー同士も仲間として助けあっていると思う。 Kさん



前回に引き続き今回も「SOUくんとポチのART GALLERY」を掲載するよ。みんなが一生懸命作ってくれる作品の一つひとつが本当に大切な僕達のお宝になるんだ。今回も作業療法からの作品を紹介するね。

一番左の革細工は作業療法メンバー達の共同作品です。かわいい動物達がたくさん並んでいますね。

中央のブドウはM・U様の習字で書いた絵なんだ。力強いブドウでしょ♪

右側の作品はN・O様とT・M様の陶芸の作品です。鮮やかな色合いとユニークなデザインの陶芸もあるね。みんな本当に上手に作るものだと感心してしまいます。



SOUくんとポチの

アート
ギャラリー

ART GALLERY



革細工 作品名／動物マスコット



書道 作品名／ブドウが食べたい



陶芸 作品名／春のお茶会



いかがでしたか？次回の作品にもご期待くださいね。

～平成17年度初任者研修プログラム～

先月の12日に当院の新人職員を対象にした研修会が開催されました。当院の理念・医療のあり方や個人情報保護について、また精神保健福祉法や患者様の人権やプライバシーに関する講義などが行なわれました。更に、接遇に関するグループディスカッションでは活発な意見交換がなさ



れ、新人にとって有意義な研修会であったと感じます。左の写真が当院新戦力の皆さんです。大いに期待したいと思います。

理 念

適切な精神科医療・保健・福祉をめざし次の二つの柱を基礎に据えます。

- 精神障害者の医療および保護を行い、自立のために社会復帰および社会的経済活動への支援をします。
- その障害の予防に取り組み、市民の精神保健の向上をめざし、地域に根ざした病院を目指します。

医療法人社団慈蔭会 平松記念病院

編集後記



第3号からお手伝いさせていただき、てんやわんやでしたが、どうにか送り出す事が出来ました。今後更により良いものにしていきたいと思いますので、ご支援の程よろしくお願い致します。 山田



一目見た時に続きを読んでみたくなるような楽しい広報誌を作っていますので、次回も楽しみにして下さい。また8月上旬には夏祭りを開催する予定ですので、お時間のある方は是非参加して下さい。 鶴田